

英字新聞記事のリードは約30語で書かれているか

神 本 忠 光

I. はじめに

日常生活で英語を話しことばとして使う機会はほとんどない。そのような日本のEFL言語環境で、英字新聞は中級以上の英語学習者にとって最適の教材となりうる。世界中の最新ニュース記事を自分のペースで読み進め、活きた語彙や表現を学ぶことができる。

文科省は従来から中学校や高等学校学習指導要領の中で、新聞や放送などに用いられる英語を理解する基礎的な能力と知識の習得を掲げている。またCEFR-Jでも、読む材料として英字新聞に言及している（投野，2013）。英語力を音声や文字での発表へと発展させるには、理解の段階でその対象となる内容を支える文法・語彙を確固たるものにしておく必要がある。

英字新聞記事の読み方や特徴についての書籍はあるが、その大半は著者や編者が過去の重大なニュースを選択し、主に語彙と文法の観点から注釈をつけたものである。読みを促進する工夫がなされた教材や指導の仕方に関しては、今後の研究の余地が残されている。その教材開発の一步として、ここではニュース記事の三要素（見出し・リード・本文）の一つ、リード（lead）について基礎研究を行う。

I.1. リードの定義

リードは、見出しに続く記事全体の第一段落を指す。リードは、ニュース記事の基本情報である5W1H（when, where, who, what, why, how）を含み約30語の1文で書かれる、と典型的に説明される（Blake, n.d.; 佐藤，2021）。

見出しを記事のタイトルに例えるなら、リードはニュースのあらすじに相当する。従って、見出しとリードの二つの要素を読めば、その記事の全体像を素早く把握できる(佐藤, 2021; 天満・Berendt, 1996)。ニュースの詳細に関心があれば、記事の三つ目の要素である本文を読めばよい。

一方、見出しは限られたスペースで効率よく伝えようとする結果、一般英語学習者にはあまり親しみがなく語彙や品詞(例: ram「激突する」やink「調印する」)が使われることがよくある。その結果、1文で5W1Hが要領よく書いてあるリードの方がわかりやすく、浅野(1991)が以下に述べているようなことが起こりうる。

“この導入部(lead)には、記事全体の要約が書かれており、ヘッドラインの理解を助けてくれる。殊に、ヘッドラインの簡略化された表現を、リードの完成された文章と丹念に照合すると、語法的な疑問点が氷解したり、興味深い表現上の対比を発見したりするであろう”(p. 26)

英語学習の観点からすると興味深い指摘ではあるが、英字新聞の本来の読み方ではない。見出しはあくまで記事を紹介する要素として読まれるべきだし、リードは記事のあらすじを伝える機能を持つ段落として読まれるべきであろう。いずれにしろ、リードを理解することの重要性を物語っていることには間違いない。そのようなリードに関して、先ほど取り上げたリードの説明のポイントである語数と文の数の観点から再吟味することを、この研究の目的とする。

I.2. 語数

リードの長さに関して、30語前後で書かれるという説明が一般的である。いくつかその例を示す。

“A lead is the first sentence of a news story. It should be a single

paragraph consisting of a single sentence of 30 or fewer words.”

(Blake, n.d.)

“The longest lead of these papers was 68 words (in a two-sentence lead). But the six front pages had 29 local bylined stories, with an average 36.8-word lead length.”

(The Web Journal of Mass Communication Research, 2000)

“Generally, leads are 25 to 30 words and should rarely be more than 40.”

(Purdue University Online Writing Lab “How to write a lead”)

“リードは30語前後で書かれる記事の冒頭にある文章で、「誰が（何が） どうした」「いつ、どこで、なぜ、どのように」といった記事内容のエキスが詰め込まれた部分です。”（佐藤，2021）

以上の例からもわかるように、リードの長さは約30語程度という説明の仕方が一般的と見なして構わないようである。

I.3. 文の数

リードの説明の中には、語数だけではなく、文の数について同時に触れているものもある。

“Leads are often one sentence, sometimes two.”

(Purdue University Online Writing Lab “How to write a lead”)

“The longest lead of these papers was 68 words (in a two-sentence lead).”

(The Web Journal of Mass Communication Research, 2000)

リードの一般的な説明として、1文からなるという表記が圧倒的に多いが、2文からなることもあるという説明はあまりなされていない。

以下に先行研究をまとめる。

1. リードは1文で書かれることが多いが、2文もありうる
2. リード文の語数は25語から30語が一般的であるが、40語近くになることもある

I.4. 語数と理解度

リードは1文で約30語という長さは、一般的な英語学習者の立場からすると、決して容易に理解できる長さではない。文の理解に関わる他の要素が同等であると仮定すると、文の長さは短いほど理解しやすく、長くなればなるほど理解しにくくなると言える。

英文の読みやすさを測る可読性の公式で、文の長さは語の頻度と同様に重要な要因である (Beck & McKeown, 1996; Crossley, Allen & McNamara, 2011; Gaies, 1979; Kramer & McLean, 2019)。

英字新聞記事の読解も「学習指導要領」の目的の中にも明記されているので、最終的な目標となる本物の英字新聞のデータを対象に、一般的な説明の妥当性を確かめておくことは教材研究では欠かせない過程と考えられる。そうすることによって、中学校や高校の指導者も、リードは1文30語という説明に関して、どの程度強調して指導する必要があるか、その明確な指標を得ることとなる。

先に取り上げたリードの一般的な説明はあくまでリードの総合的な特徴を簡潔にまとめたものなので、実態を必ずしも的確に反映している訳ではないことが強く示唆された。この点からも、リードの長さは約30語であるという説明の妥当性を調査する価値はある。

Ⅱ. 調査

Ⅱ.1. 調査目的

この調査では、リードの構造に関して、文の数と長さの観点から実際の英字新聞記事を使って明らかにすることを目的とする。

Ⅱ.2. 対象新聞・記事

ここでは、調査対象の英字新聞と記事の種類を明らかにする。

対象英字新聞：

現在、日本に本社を置く新聞社が発行している日刊英字新聞は*The Japan News*と*Japan Times*の2紙があるが、この調査では前者の*The Japan News*を対象とする。期間はその新聞の約二か月間（2021年10月5日から12月3日）にわたる54日分である。

対象記事：

日本国内外の政治・経済・社会を取り扱う一般的なニュース記事を調査対象とする。社説や特集記事など、見出し・リード・本文の記事構造を持たない記事は対象外とする。また、スポーツ記事も調査対象から外した。一般的なニュース記事は幅広い一般大衆が読者になりうると想定できるが、スポーツへの関心は著しく個人差があるし、国や季節によって取り上げられるスポーツも異なる（例：クリケット、アイスホッケーなど）。従って、スポーツ記事を省いた方がより一般的なニュース記事の全体像を把握できる。

Ⅱ.3. 語のカウントの仕方

リード内の語数を数える際、辞書の見出し語を一語として数えた。換言すると、スペース単位で一語と見なした。

ハイフオン語の場合、辞書に一般的に掲載されている慣用的なものであれば、1語と見なした。しかし、ハイフオンで結ばれている語彙間に結びつきがあまり

強くないジャーナリスティックな用法の場合、別々な語とカウントした。

なお、リード冒頭にくる取材地と通信社の情報はカウントには入れなかった。

リードが2文以上からなる場合は、文の数と同時に、それぞれの語数もカウントした。

Ⅲ. 結果

まず初めに、調査対象とした英字新聞の記事数やリードの文数について結果を報告する。その後、本題のリード内の語数についてデータを整理し、結果を報告する。

Ⅲ.1.1. 記事の数

先に示した記事の数え方によると、調査対象の記事総数は1,958記事となった。一日の平均ニュース記事数は36.26で、最低は22記事で、最高は49記事となった。また、標準偏差は6.41記事であった。

Ⅲ.1.2. リードの文数

この調査では、記事の総数はリードの総数でもある。そのリード数1,958を文の数で整理すると、以下のようになった。

表1. 文の数による記事数

1文リード：	1,840 (93.97%)
2文以上からなるリード：	118 (6.03%)

1文リードが占める割合が約94%と、大部分を占めていることが明らかになった。2文以上からなるリードは約6%であった。この比率から、ほとんどのリードは1文から構成されていると言える。

「2文以上からなるリード」範疇の内訳を示すと、2文リードが104、3文リードが13、4文リードが1あった。リード内の文数が2文以上になれば、それだけ

1文の長さは短くなる。従って、1文リードの場合と比べ、複数の文からリードが構成される場合は、1文当たりの語数は少なくなり文法的難易度は低くなると予想される。

以上のデータから、リードは圧倒的に1文から書かれる強い傾向にあるが、リードは必ずしも1文で書くという鉄則がある訳ではないことが明らかになった。

Ⅲ.2. リードの語数

これ以降の分析は、1文リード1,840のみを対象とする。その全体的特徴を明らかにするために、いくつかの統計データを示す（以下「リード」という時は、「1文リード」のことを指す）。

Ⅲ.2.1. 基本統計量

まずは、リードが何語から書かれているか、その基本統計量を示す。

表 2. 基本統計量

平均	32.62
標準誤差	0.18
中央値（メジアン）	33
最頻値（モード）	30
標準偏差	7.65
分散	58.53
尖度	0.61
歪度	0.16
範囲	62
最小	8
最大	70
合計	60012
データの個数	1840

表2で示されているように、リードの平均語数は32.62語であることがわかった。中央値(数値を小さい方から並べた時中央に来る数値)は33語で、最頻値(最も個数が多い数値)は30語で、平均値とほとんど変わらない。このことはデータの分布がほぼ左右対称であることを示している。

平均語数±標準偏差の数値に相当する数値は24.97語～40.27語となり、データの約7割を占めていることになる。尖度0.61は正規分布の尖度よりも低いので、なだらかな分布であることがわかる。歪度0.16から、リードの分布がわずかに左に傾いていると言える。また、リードの一番短いものは8語で、最大の長さのリードは70語からなっていた。

以上のことから、リードの長さは約30語という一般的な説明は妥当だと言える。その一方で、ほぼ2,000の記事を対象としたデータからリードの語数にはかなりの幅があることも明らかになった。従って「リードは約30語からなる」という説明の仕方では、データの散布状況を十分に反映していないだけでなく、学習者に誤った理解をさせてしまう危険があることになる。次のセクションでは、度数分布表や関連図を示し、分布の状況を細かく見ていく。

Ⅲ.2.2. ヒストグラム

リードの語数データがどのように分布しているのかを把握するために、度数分布表とそれを基にしたパレート図を示す。度数分布表の階級幅は、直感的にわかりやすい区切りにするために10語とした^(注1)。

以上の配慮を取り入れた度数分布表を表3に示した。表の左3列はデータ区間毎に並べたリード数の頻度とその割合を示した。右3列は、そのデータを頻度を基準に降順に並べ替えたものである。右端の累積%を見ることで、リードの語数分布全体でデータ区間が占めている順序とその規模を掴むことができる。

表 3. 度数分布表

データ区間	頻度	%	データ区間	頻度	累積 %
1 - 5	0	0.00%	26-35	872	47.39%
6 -15	18	0.98%	36-45	571	78.42%
16-25	297	16.14%	16-25	297	94.57%
26-35	872	47.39%	46-55	72	98.48%
36-45	571	31.04%	6 -15	18	99.46%
46-55	72	3.91%	56-65	9	99.95%
56-65	9	0.49%	66-75	1	100.00%
66-75	1	0.05%	1 - 5	0	100.00%

さらに、表 3 の右半分のデータを視覚的にパレート図で示す。棒グラフはデータ区間単位で降順に並べた頻度を示し、折れ線グラフはそれらのデータ区間がどの程度全体に占め変化していくかを累積%で示している。

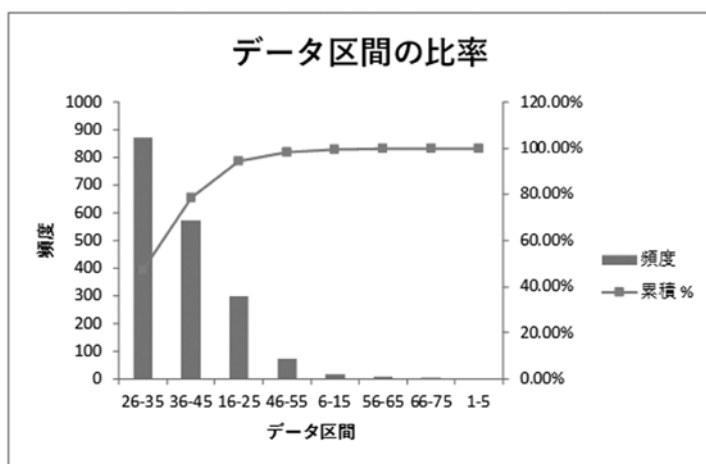


図 1

表 3 と図 1 を見ることで、一番頻度が高かったのは「26-35」語のデータ区間

だと明らかになった。この語数を持つリードの数は872あり、47.39%とほぼ5割を占めている。次に頻度が高いのは「36-45」語のデータ区間で、3割強のデータを占める。頻度が高いこの二つのデータ区間を足し合わせると、データ全体のほぼ8割を占める。三番目に頻度が高い「16-25」語データ区間の16.14%を加えると、約95%を占めることになる。

以上の資料から次のことが言える。調査したリード全体の半数が「26-35」語の区間であるから、「リードの長さが約30語」という説明で一応の納得は得られるかもしれない。しかし、次に頻度が高いのは「36-45」語の区間という事実である。この語の区間は、英語学習者にリードがかなり長いという印象を与えることになる。しかも、リードに登場する5W1Hの情報の中には、人名や地名などで馴染みのない世界中の固有名詞が使われ、より難解な印象を与えかねない。このことは、長い英文にも耐えうる読解力の指導が必要なことを強く示唆している。

Ⅲ.3. まとめ

約二か月分の英字新聞記事のリードを分析することで、一般的に「リードは約30語からなる」という説明はある程度妥当だといえる、ということが明らかになった。ただし、この説明ではすべてのリードがこの語数前後数語で書かれるかのような印象を与えるが、本調査はもっと幅があるという事を明らかにした。実際には、30語の前後5語を区間とした「26-35」語の属する語数がデータ全体のほぼ半分を占めている。さらに次に頻度が高いデータ区間が「36-45」語で約3割を占めている。まとめると、リードに費やされる語数は30語よりやや多めの語数が使われる分布になっていると言える。

Ⅲ.4. 教育上の示唆

この調査で、リードの語数に関してはかなりの幅があることが明らかになった。しかも、26語から45語という語数が全データの8割を占めていた。この1文

における語数の多さは、英字新聞を教材として英語を学ぼうとする学習者にとってかなりの難易度を内包していると言える。

1文の長さに関して、Chapelle, Jamieson, & Hegelheimer (2003: 420) はテキスト難易度と学習者能力との関連に関して、初級者は1文の長さが14語以内、中級者は13語から20語、上級者は18語以上でも無理なく読めると述べている。また、Cutts (2009) は1文の平均は15-20語であると述べている。この目安から判断すると、リードが30語からなるという長さは、無理なく読める範囲を超えている可能性を示唆している。

Ⅲ.5. 今後の課題

リードはニュースの重要要素である5W1H (who, what, when, where, why, how) を含んでいる。そして読者はそれらの要素を意味単位に判別できる必要がある。しかし、それらの要素を判別する難易度は異なる。おそらく、whenが一番易しいであろう。whenの要素をなす表現のなかで、西暦は数値で示されるし、月や曜日の語彙は基礎なので判別にさほど苦勞することはないと考えられる。whereになると、日本の地名は問題なかろうが、諸外国の地名になると場合によっては、地名ということさえ判断が困難な可能性がある。whoとwhatの要素が相対的に記事のなかで重要だと思われるが、長いリード、言い換えれば文法的に複雑な可能性が高い構造の中での確に判別できるか、また判別できるような指導はどうしたらよいかなど今後の検討課題である。

Ⅵ. 結論

この基礎データで英字新聞の三要素の一つであるリードに関して、特に二つのことが明らかになったと言える。ひとつめは、リードの大半が1文で書かれていることを確かめられた。もうひとつは、リードの語数に関してである。今までの説明のように、約30語で書かれるという表現は不十分であることが明らかになった。30語よりもかなり多くの語彙数が使われている場合も3割あった。以上のこ

とを踏まえて、リードの語数に関して次のような説明にするほうが望ましいと言える。

「(リードのほとんどは1文で書かれ、) その長さはさまざまであるが8割が26語～45語で構成されている。」

注釈

(注1) 次に階級の幅の始点が問題になる。1から始めると、「1-10」、「11-20」、「21-30」などとなり、この研究での最大の関心事である「リードの語数は30語」という数値が「21-30」という区切りの上限值にくる。すると、その前後のデータ区間で観察される頻度数に不当に影響してしまう懸念がある。またこのデータ区間の設定方法では、実際の平均語数である32.62と別なデータ区間に入ることになる。従ってここでは、実際の平均語数である32.62も検証課題の30語と同区間に入れたデータ区間にする方が、データ分析がわかりやすいと考え、「6-15」、「16-25」、「26-35」などというようなデータ区間にした。

参考文献

- 浅野雅巳. (1991). 「英字新聞・雑誌の読み方」. 『英語教育』, 40(11), 26-28.
- 佐藤正和. (2021). 「英語 英字新聞の読み方入門編」. Retrieved December 22, 2021, from <https://nie.asahi.com/english-how-to-read.html>
- 天満美智子・Berendt, E.A. (1996). 『やさしい英字新聞入門』. 岩波出版.
- 投野由紀夫. (編). (2013). 『英語到達度指標CEFR-Jガイドブック』. 東京：大修館.
- 文部科学省. 「【外国語編】中学校学習指導要領（平成29年告知）解説」
https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/index_00005.htm
- 文部科学省. 「【外国語編】高等学校学習指導要領（平成30年告知）解説」
<https://www.mext.go.jp/content>
- Beck, I., & McKeown, M. G. (1996). Conditions of vocabulary acquisition. In R. Barr, M. L. Kamil, P. Mosenthal & P. D. Pearson (Eds.), *Handbook of reading research* (Vol. II, pp.

- 789-814). Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.
- Blake, K. (n.d.). Six Rules for Writing a Straight News Lead. Retrieved August 12, 2020, from <https://drkblake.com/six-rules-for-writing-a-straight-news-lead/>
- Chapelle, C. A., Jamieson, J., & Hegelheimer, V. (2003). Validation of a web-based ESL test. *Language Testing*, 20, 409-439.
- Crossley, S. A., Allen, D. B., & McNamara, D. S. (2011). Text readability and intuitive simplification: A comparison of readability formulas. *Reading in a Foreign Language*, 23 (1), 84-101.
- Cutts, M. (2009). *Oxford guide to plain English* (3rd ed.). New York, NY: Oxford University Press.
- Gaies, S. J. (1979). Linguistic input in formal second language learning: The issues of syntactic gradation and readability in ESL materials. *TESOL Quarterly*, 13 (1), 41-50.
- Kramer, B., & McLean, S. (2019). L2 reading rate and word length: The necessity of character-based measurement. *Reading in a Foreign Language*, 31(2), 201-225.
- Purdue University Online Writing Lab. (n.d.). How to write a lead. Retrieved February 1, 2022, from https://owl.purdue.edu/owl/subject_specific_writing/journalism_and_journalistic_writing/writing_leads.html#:~:text=Leads%20are%20often%20one%20sentence,how%20to%20deliver%20information%20concisely.
- Sanderson, P. (1999). *Using newspapers in the classroom*. Cambridge: Cambridge University Press.
- The Web Journal of Mass Communication Research (2000).
<http://wjmcrr.info/2000/03/01/lead-length-and-voice-in-u-s-newspapers/>
- Tudor, I., & Hafiz, F. (1989). Extensive reading as a means of input to L2 learning. *Journal of Research in Reading*, 12 (2), 164-178.

